

XIII ABPインターンシップ

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学国際連携推進機構 公開日: 2024-02-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 池田, 聖子, 佐々木, 良造 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000223

XIII ABP インターンシップ

浜松キャンパス担当：池田 聖子

静岡キャンパス担当：佐々木良造

1. ABP インターンシップの背景

本学のアジアブリッジプログラム（Asia Bridge Program, 以下ABP）は、「国際展開を進める静岡県企業及び自治体と連携し、将来、静岡とアジア諸国の架け橋として活躍が期待される「理工系の専門性に経営学的思考、文系の専門性に理工学的思考をあわせ持ち、広い視野のもとでアジアを中心とする海外で活躍する人材」の育成」を目的としている（静岡大学アジアブリッジプログラム）。その一環として、留学生科目「ABP インターンシップ」（通年2単位）を設け、主に静岡県内の日本企業におけるインターンシップを必修としている。

「ABP インターンシップ」は、日本や日本企業における文化に触れながら、実体験を通じてキャリア教育を行うものであり、静岡県内の企業との連携を図りながら、学生の企業での就業体験を後押ししている。留学生を企業へ派遣することは、地域の活性化やグローバル化に繋がる側面があると同時に、留学生にとっては日本での就職という選択肢がより身近になるという利点もある。そこで、大学低年次からインターンシップに取り組めるよう、履修対象学年は入学半年後の1年次前期からとしている。また、インターンシップ先は日本国内の日本企業、法人、団体等に限定し、現時点では日本国外の日本企業や日系企業はインターンシップ先に含めていない。

2. ABP インターンシップの概要

「ABP インターンシップ」の履修方法については、毎年4～5月頃に各キャンパスにおいて担当教員が履修予定者を対象にガイダンスを行い、授業計画や受講要件について説明を行っている。「ABP インターンシップ」においては、インターンシップ期間を原則として10日間以上としているが、2週間にわたるインターンシップを実施している企業はそう多くはないため、受講生がインターンシップ先を見つけるのが困難な場合もある。そこで、合計日数が10日間以上となれば、2つの企業のインターンシップに参加することも認めている。また、10日間は連続している必要はなく、週1回を10週間、あるいは、月1回を10か月間実施して、計10日間となるインターンシップへの参加も認めている。インターンシップの期間は、インターンシップ先の職種や実習内容と共に、担当教員が事前に確認する。

「ABP インターンシップ」において受講生に課せられる課題は、インターンシップ開始前、インターンシップ実施中、インターンシップ終了後の3つのプロセスに分けられる。以下に、順を追って説明する。

インターンシップ開始前は、受講生はまず、インターンシップ先の情報収集から始め、希望する企業を見つけたら自分で応募する。インターンシップ先が決定したら、受講生は

学務情報システムおよび担当教員に「ABPインターンシップ実習参加届」を提出し、学研災付帯賠償責任保険（学研賠）に加入済みを確認する。担当教員はインターンシップ先の職種や実習内容がその受講生にとって適当かどうか確認する。インターンシップ先として特に問題がなければ、受講生はインターンシップ開始前までに「事前レポート」を作成し、担当教員に提出する。

インターンシップの初日に、受講生はインターンシップ先の担当者に所定の「インターンシップ評価表」の作成を依頼しておく。インターンシップ実施中は毎日、「実習日誌」にその日の作業内容や振り返りを記録する。インターンシップの最終日に、インターンシップ先の担当者に「インターンシップ評価表」を記入してもらい、受け取る。

インターンシップ終了後は、受講生は1か月以内に「事後レポート」「実習日誌」「インターンシップ評価表」の3点を担当教員に提出する。さらに、最終課題として、「ABPインターンシップ報告会」においてポスター発表を行い、インターンシップの報告をする。なお、2020年度、2021年度に続き、2022年度も新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、一部、ポスター発表ではなくZoomによるプレゼンテーション形式で実施した。

以上をまとめると、留学生科目「ABPインターンシップ」の課題は表1のように構成されている。

表1 ABPインターンシップの課題

インターンシップ開始前	(1)インターンシップ先決定まで <ul style="list-style-type: none"> • インターンシップ先の情報収集および応募 (2)インターンシップ先決定後 <ul style="list-style-type: none"> • 「A B P インターンシップ実習参加計画届」提出 • 学研災付帯賠償責任保険（学研賠）加入確認 • 「事前レポート」提出
インターンシップ実施中	<ul style="list-style-type: none"> • 「実習日誌」（日数分）記録 • インターンシップ先の担当者への「インターンシップ評価表」作成依頼および受け取り
インターンシップ終了後	(1)終了後1か月以内に提出 <ul style="list-style-type: none"> • 「事後レポート」 • 「実習日誌」（日数分） • 「インターンシップ評価表」 (2)「ABPインターンシップ報告会」でのポスター発表

3. 履修者数

2022年度「ABPインターンシップ」の履修者数は以下のとおりである。

3. 1 静岡キャンパスの履修者数

静岡キャンパスの履修生は表2のとおり、7名であった。

表2 留学生科目「ABP インターンシップ履修者」(静岡キャンパス)

単位：人

学部	県内	県外	計
人文社会科学部	5	0	5
教育学部	—	—	—
理学部	2	0	2
農学部	—	—	—
計	7	0	7

内訳は、人文社会科学部5名、うち2年次2名、3年次1名、4年次2名が履修し、1年次で履修した者はいなかった。理学部は3年次1名、2年次1名が履修した。なお、教育学部と農学部履修対象者はいなかった。

県内でインターンシップを行った者は7名、県外でインターンシップを行った者はいなかった。

3.2 浜松キャンパスの履修者数

浜松キャンパスの履修生は表3のとおり、8名であった。

表3 留学生科目「ABP インターンシップ履修者」(浜松キャンパス)

単位：人

学部	県内	県外	計
工学部	4	0	4
情報学部	4	0	4
計	8	0	8

内訳は、工学部の履修者は4名で、うち2年次3名、3年次1名であった。1年次と4年次の履修者はいなかった。情報学部も4名で、2年次3名、3年次1名であった。工学部と同様、1年次と4年次の履修者はいなかった。

県内でインターンシップを行った者は8名、県外でインターンシップを行った者はいなかった。

3.3 履修対象者の拡大

2021(令和3)年度から始まった本学の私費留学生(学士)修学支援制度を受ける者は、留学生科目「ABP インターンシップ」の単位を修得することが条件となっている。したがって、10月入学のABP留学生に加え、4月入学の私費留学生も本科目を履修するようになり、静岡キャンパス・浜松キャンパスの両キャンパスで最大12名の受講者増が見込まれる。

4月に入学する私費留学生は静岡キャンパスのほうが人数が多いため、今後、特に静岡キャンパスにおける本科目の受講者数が増えていくことが見込まれる。

私費留学生（学士）修学支援制度に基づく本科目の履修者は、2022（令和4）年度、理学部の学生1名のみであった。今後、2022（令和4）年度入学および2023年（令和5）年度入学の支援対象者が順次履修する。履修者増に伴い科目としての質を下げないように、担当教員を増やす、「ABPインターンシップ報告会」を随時開催から定期開催にするといった対応が必要である。

付記 本報告は本紀要第5号の「ⅩⅢ ABPインターンシップ」の報告を基に、2022年度の実施内容に沿って加筆・修正をしたものである。

【参考文献】

静岡大学アジアブリッジプログラム「ABPとは」、<https://www.abp.icsu.shizuoka.ac.jp/about/>（2023年7月26日アクセス）

※おもな執筆担当箇所は次のとおりである。

池田 1、2、3.2

佐々木 3.1、3.3